2026 年 1 月 30 日

大阪府健康医療部保健医療室地域保健課依存症対策グループ　御中

大阪府臨床心理士会　会長　梨谷竜也

# 依存症啓発動画についての意見

## １．はじめに

大阪府におかれましては、日頃より府民の心の健康の保持・増進および依存症対策の推進にご尽力されていることに、心より敬意を表します。

このたび、大阪府が制作・公開された依存症啓発動画につきまして、公開後に多様な意見が寄せられ、現在は公開を一時停止したうえで検討を進められていると承知しております。

大阪府臨床心理士会は、依存症を含む精神健康領域に携わる専門職団体として、本動画の表現内容について、心理学および依存症臨床の観点から専門的見解を整理し、以下のとおり意見を申し述べます。

## ２．啓発の趣旨に対する評価

本動画が、若年層におけるギャンブル依存症の問題を可視化し、相談や支援につなげる契機を提供しようとする意図のもとに制作された点については、重要かつ意義深い取り組みであると考えます。

依存症に関する正しい理解を社会に広め、早期の相談・支援につなげる啓発活動は、今後ますます重要性を増すものであり、その点において本事業の方向性自体は高く評価されるべきものと考えます。

## ３．心理学的観点から見た懸念点

一方で、本動画における人物設定や問題解決の描写については、心理学および依存症臨床の立場から、以下の点において慎重な検討が必要であると考えます。

### （１）依存症の成因に関する誤解を招く可能性

動画内において示されている主人公の人物像や言動は、視聴者によっては、依存症が「性格特性」や「価値観の問題」、あるいは「安易な生き方」に起因するものであるとの理解につながるおそれがあります。

しかし、ギャンブル依存症は医学的・心理学的に確立された疾患であり、個人の性格や意思の弱さによって生じるものではありません。この点について十分な配慮がなされない場合、当事者やその家族に対する誤解やスティグマを助長する可能性があります。

（２）回復過程の表現に関する課題

また、依存症からの回復を「自分の中の鬼に勝つ」といった比喩で表現することは、回復を個人の内的努力や精神的強さに過度に帰属させる印象を与える可能性があります。

依存症からの回復は、専門的治療や支援、周囲の理解と協力といった環境的要因が重要な役割を果たすプロセスであり、その点が十分に伝わらない場合、「努力できない当事者が悪い」といった誤った認識につながるおそれがあります。

４．今後の啓発活動に向けた提案

以上を踏まえ、今後の依存症啓発の取り組みにおいては、以下の点についてご検討いただくことが望ましいと考えます。

1. 依存症を「病気・障害」として正確に位置づける表現の明確化
2. 回復が専門的支援と社会的支援によって支えられるプロセスであることの強調
3. 当事者や家族が地域の共同体の中で支え合い、生活できることを示した表現の採用
4. 企画・制作段階から、心理職を含む依存症専門職が関与する体制の構築

５．おわりに

大阪府が依存症対策を重要な政策課題として位置づけ、啓発活動に取り組まれていることは、府民の心の健康を守るうえで極めて意義深いものです。

本意見書が、今後の啓発活動をより適切で効果的なものとするための一助となれば幸いです。大阪府臨床心理士会としても、必要に応じて専門的知見の提供や協力を行う用意があることを申し添えます。

以上